

1962 (昭和37年)

会員数37名

11代理事長

松本武泰



八幡浜青年会議所は、昭和37年1月19日午後6時商工会議所で定時総会を開催した。この定時総会において第11代松本武泰理事長、木綱峯保・村上恭三副理事長、坂本武専務理事のスタッフは、本年度の方針決めた。

一、青年指導者としての社会的責任において、修練奉仕・友情を精神的支柱として、よりよい社会の実現を目標として、青年会議所活動の社会性を大いに発揮する。

一、政治経済、社会問題に積極的に関与する。

一、青年会議所の国際性を活用し世界における青年会議所会員の相互理解を深める。

八幡浜JCはこの3つの中で政治に積極的に関与すると言うことに重点をおくことにした。

それまでは、政治には立ち入らないと言うのが、日本JCの方針であったから百八十度の転換がなされたわけだ。

今年度から、従来の奉仕一本槍の立場から、政治・経済についても、大いに関心を持つことを打出しその前提として、新聞記者を囲む座談会とか市議会議長らを囲む座談会などの構想を持ち、そのひとつである「新聞記者を囲む座談会」を2月10日午後6時半から市内ロンドン別館で開催・新聞記者側から市内三日刊の記者をはじめ、読売・産経・愛媛・新愛媛・NHKの各友局、通信部長、それに本社長などが出席、主催者側から松本理事長をはじめ、政治委員会担当の村上氏、平田・梶田・片山各前理事長以下会員15氏らが参加、まず松本理事長から新理事長就任の挨拶と座談会開催の趣旨を述べた。

翌38年が市長・市会議員選挙の年だったので、大いに関心を持たれ、各新聞とも大きく報道した。それは、若い方の新風に期待すると言ったものだった。

市民からも関心を持たれ、翌年の市議選に出馬をという話も出たり消えたりしていた。白羽の矢を平田久市氏に立て交渉に入った。平田氏は、はじめ辞退していたが、青年会議所の代表という立場でこれを受け入れることとなった。

3月1日には八幡浜青年会議所の主催で勤労青少年の門出を祝う会が開かれた。就職する中学卒業生の門出を祝福するもので五回目、午前9時から市内8中学校の約六百名が東映劇場に集まり、松本青年会議所理事長、野本市長、山本商工会議所会頭の祝辞をうけた。

「理想はわれわれ自身の中にある。同時にその達成に対するもろもろの障害もまた、われわれ自身の中にあるカーライフ」のカードを挿入したサイフ兼用の名刺入れが記念品として送られた昨年、市内の丸三産業に就職した中元真記子さんが先輩として激励のことばを述べた。このあと600人を代表して真穴中の水内徳昭君が「良識のある社会人になるようにつとめます」と誓いの言葉を述べ、みんなで「故郷をはなれる歌」を合唱、映画「モーガン警部と謎の男」を観賞した。

今年は1日現在、男女とも9割以上の就職が決っており、

出席したPTA関係者や生徒たちも晴れ晴れとした表情だった。

文芸春秋社主催、八幡浜青年会議所講演の文化講演会が4月7日夜6時35分から八幡浜市松蔭小学校講堂で催された。折り悪く小雨がぱらつき聴衆の出足はにぶったが、それでも、おおよそ700人がつめかけた。特に婦人が多く、盛況のうちに9時過ぎに終わった。

講演会は女流作家・曾野綾子さんの「生活の中で考えること」にはじまり、ついで文芸評論家、河盛好蔵氏の「ウソとまこと」漫画家・西川辰美氏の「漫画よもやま話」の演題で行なわれた。



文化講演会で来浜した西川辰美先生と曾野綾子女史



みなと祭り仮装行列「レジャー時代・JCハワイへ行く」で出演。レジャーブーム到来の時代で、時代を先取りしたアイデアで見事優勝。

1963 (昭和38年)

会員数32名

12代理事長

上田英彦



昭和38年上田英彦理事長の年は選挙の年だった。1月の知事選には、4月の平田久市氏の市議選の勉強とばかり積極的に応援し、知事選終了後平田氏の自宅を選挙事務所として選挙運動の準備にとりかかった。1月17日、38年度定期総会を開いて予算案・事業計画等を審議した後、市議選に臨む態度などを健闘した。



2月27日には家庭親睦会を開き会員の奥様方の積極的な応援を依頼している。

選挙戦はJCらしくと言うことで全員手弁当・本部の制服を着て平田氏を先頭に立て中心部を歩いて廻ったりもした。会員はただひたすら、がむしゃらに動いた、それは初めて経験する選挙に真面目に純真に動いたと言っている。奥様方も交替で本部に詰め、いろいろ世話をやいた。こうした32名のJC会員の若々しい純真な行動は強く市民の心を打った。

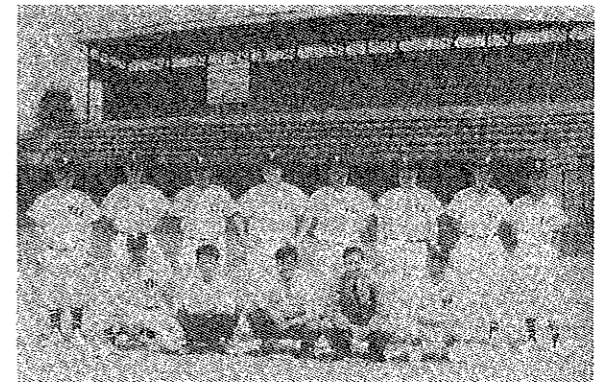
4月30日投票の結果1,599票という記録破りの最高点で当選する事が出来、「若さと英知を市政へ」のキャッチフレーズが市政に生かされる事になった。

9月13日には魚本新市長を囲んで市の発展策について活発な話し合いを行った。座談会には同青年会議所推薦で当選した平田市議と会員20名が出席、宮川経済、津野総務・神応社会各委員長が代表質問を行ない、特に「今治市ではタオル産業を振興させるため市が5千万円を預託、一億円の融資を近代化資金にあてている。商店従業員の福祉厚生のため給食センターを設置してほしい。経済基盤の確立を計るため道路網の整備と夜昼トンネル・えのきトンネルの開通促進、文化センターと小公園の新設を是非やってほしい」と注文した。

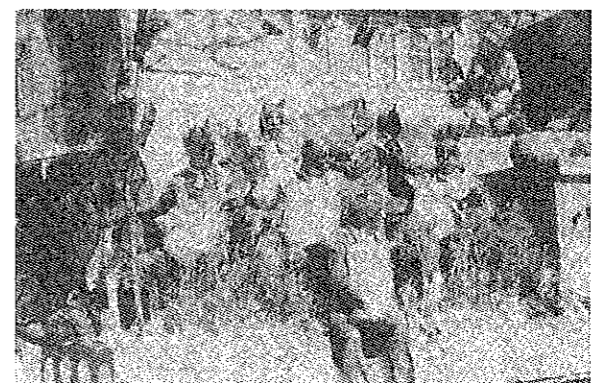
これに対し魚本市長は「八幡浜は幸か不幸か戦災を受けなかった為、都市計画事業が現在では、むしろ他市に比べ遅れている。年々労働力が県外に流失してしまい、このままでは斜陽都市化する恐れがある。このピンチを切りぬけるためには多少の抵抗があっても新・旧港約6万6千平方メートルを埋め立てて、ここに文化センターなり新しい商店街をつくる以外に方法はないと思う」と魚本私案を発表、

また「これからの商店街は、全て協同の力で横のデパート化をねらうべきで、防災地域の指定を受けて高層建築資金が借りられるよう努力する。また九四連絡フェリーポートができれば観光面でもプラスとなり、三崎半島のハイウェイコースやゴルフ場なども脚光をあびるだろう。水族館も養殖事業をかねたスケールの大きなものを計画している」と若い者にまけない大きな夢と持論をぶちまけていた。

会員たちも「市が先に計画した市内栗之浦を埋め立てて中小工場を誘致するという案よりも内港を埋め立てて新しい港を作る計画の方が前向きな市政だと思う」と魚本私案を支持、こんども随時こうした市政懇談会を開いて「伊予の大阪」といわれたころの繁栄をとりもどすために努力し合うこととなった。



6月8日四国JC野球大会 徳島・蔵本球場で行う



みなと祭り仮装行列「JCたぬき祭り」で参加したぬきもびっくり！メンバーの見事なたぬきへの化けっぷり



ロンドン別館にての家族会